



「自画像のためのスケッチ」から発展した別の自画像が、1587年の「文学者」(素描・版画、ジェノバ 赤の宮殿/P4)である。白い紙にペンと絵筆、インク、青の淡彩とわずかに鉛筆で描かれている。アルチンボルドは、スケッチでは画家として描いていたのとは対照的に、ここでは自らを高貴な人物として表現している。この作品の中で、彼は当時流行の気品のある服装をまとい、手入れのゆきとどいたあごひげのある顔を豊かなひだ襟が縁取っている古典文学研究者としての姿を再現している。上半身の自画像である。



「提督」(細部2)

個人蔵